

複式第3学年・第4学年算数科学習指導案

3年 男子3名 女子2名 計5名
4年 男子0名 女子4名 計4名
指導者 松山真理子

- 1 単元 「小数」(学校図書3年下・11時間)
「面積」(学校図書4年下・10時間)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第3学年)

これまでに子どもたちは、長さやかさなど連続量の測定に関して、端数部分の大きさを基にする単位を10等分して新しい単位をつくって表す学習をしてきている。

そこで、本題材では、端数部分の大きさを表すのに用いる小数の意味とその表し方について理解し、小数の加法及び減法ができるようにすることをねらいとしている。さらに、1を10等分して新たな単位をつくと、整数と同じように計算がしやすくなることに気づき、小数は整数と同じ十進位取り記数法の仕組みになっていることを理解したり、小数を相対的、構成的な見方で捉えたりすることもねらいとしている。

なお、これらの学習で培われた数概念は、第4学年の「小数」において、より小さな量(1/100, 1/1000)の表し方を考える学習、さらには、「小数のかけ算とわり算」の学習へと発展していく。

(第4学年)

これまでに子どもたちは、直接比較や色板並べなどで広さを比べたり、敷き詰めや面の写し取りを行ったりして、広さの素地ともいえる学習をしてきている。

そこで、本題材では、広さ(面積)を量として捉え、普遍単位によって他の量と同じように数値化できるよさを味わわせ、面積の単位と測定の意味を理解し、さらに長方形や正方形などの求積ができることをねらいとしている。また、求積公式を導き、複合図形の求積に発展させることや、単位の範囲を拡大したり、単位間の関係を理解したりすることもねらいとしている。

なお、この学習で培われた面積の概念は、第5学年での「図形の面積」において、平行四辺形、三角形、台形の求積及び、第6学年での「円」の求積へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

単元「小数」は、小数の意味や表し方について理解し、小数の加法及び減法ができることを目標としている。

本単元は、ある単位の大きさを10等分して新たな単位をつくり、その単位のいくつ分かで大きさを表すという、小さな数へ数概念を拡張していく第一歩となる。これは、今後の学年でのより小さな数への理解や、乗法・除法へつなげるための重要な位置を占めている。

小数を必要とする端数処理の具体的場面を通して、その解決に有効な方法の一つとして小数を導き、相対的な大きさや大小比較、計算などを通して次第に抽象数としての小数を認めるよう指導を進めていく。

具体的には、まず、小数を1Lますで測定したり、ます図で表して大きさを比べたりする算数的活動を通して、小数の意味と大きさについて実感を伴った理解をさせる。

次に、小数を数直線上に表して、整数と同じ系列の中に位置付けられることに気付かせ、小数が整数と同じ十進位取り記数法になっていることを理解させる。

最後に、小数の加法及び減法の計算の仕方については、「1を10等分した1つ分(0.1)のいくつ分」という

単元「面積」は、面積について単位と測定の意味、及び面積を計算によって求める方法を理解し、それらを用いることができるようにすることを目標としている。

本単元は、広さを面積という量として捉え、普遍単位を導入して数値化し、さらに単位面積 1cm^2 を導入して、単位面積のいくつ分として表すことを理解させる求積指導の基礎となるもので、今後の学年での、三角形、四角形、円の求積へつなげるための重要な位置を占めている。

面積の概念や、量の保存性について理解させるため、作業的・体験的活動などの算数的活動を積極的に取り入れ、面積についての量感を豊かにする指導を工夫し進めていく。

具体的には、まず、直接比較から始め、ブロックの区切りを1辺とした正方形の数による数値化で面積を表せるよさを知らせ、1辺1cmの正方形いくつ分で面積を調べる。また、同じ面積で違う形をかく活動を通して、量の保存性についての理解を深めさせる。

次に、長方形や正方形の面積は単位面積いくつ分であるか、手際よく見付ける方法と乗法を関連


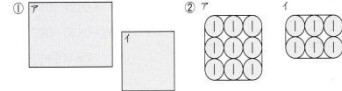
考えを活用して、図と関連付けながら考え、説明できるようにさせ、位をそろえて計算ができるようにする。

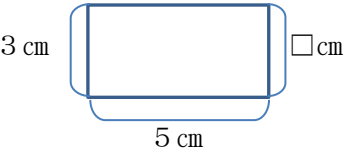
させて、求積公式を導き出していく道筋をとる。
最後に、敷き詰めや実測、その単位が使われる場所の実測や写真などを手掛かりに、普遍単位のそれぞれの量感をつかませるとともに、面積の単位の関係を理解させる。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの、算数に関すること及び複式指導に対する受け止め方、並びに、技能についてを調査した。結果は以下のとおりである。
(調査実施日 H27. 9.10)

第3学年					第4学年			
A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児	H児	I児
① 算数の勉強は、好きですか。								
好き	好き	好き	好き	好き	少し好き	好き	好き	好き
② 算数の学習が楽しいと感じるときはどんなときですか。								
<ul style="list-style-type: none"> ・計算するとき。 ・問題がすぐ解けたとき。 ・話合いで先生にほめられたとき。 					<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん問題が解けるとき。 ・計算がいろいろできるとき。 ・説明をするとき。 ・ボードに自分の考えを書くとき。 ・図をかいて考えるとき。 			
③ 算数の学習で困るときはどんなときですか。								
<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を解くとき。 ・計算ができないとき。 ・説明がうまくできないとき。 ・困ることはない。 					<ul style="list-style-type: none"> ・友達の説明の意味が分からないとき。 ・説明がうまくできないとき。 ・計算をするとき。 ・困ることはない。 			
④ 算数の時間、ノートに書くとき、工夫していることは何ですか。								
<ul style="list-style-type: none"> ・考えを詳しく書く。 ・解き方を詳しく書く。 ・大事なところは、色を変えて線を引く。 					<ul style="list-style-type: none"> ・考えのポイントを書くようにしている。 ・色を使って見やすくする。 ・見やすく書く。 ・自分の考えをしっかりと書く。 			
⑤ 自分の考えを説明するとき、気をつけていることや工夫していることはどんなことですか。								
<ul style="list-style-type: none"> ・考えのポイントが分かるようにする。 ・分かりやすく話す。 ・特にない。 					<ul style="list-style-type: none"> ・考えをくわしく話すようにしている。 ・考えのポイントを話す。 ・「まず・次に・それから」などの言葉を使う。 ・「～ですよ」と話しかけるように話す。 			
⑥ 先生が他の学年と学習しているとき、どのようなことに気をつけて学習しようとしていますか。								
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力して学習する。 ・先生がいなくても計算できるようにする。 ・まとめを自分たちでもする。 ・なるべく先生に話しかけないようにする。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドさんを中心に学習する。 ・なるべく自分たちで進めていく。 ・関係のない話をしない。 			

第3学年 (技能)	A	B	C	D	E	第4学年 (技能)	F	G	H	I
(1) 1 L 	○	○	○	○	○	(1) 1 どちらが広いでしょうか。広い方の記号を書きましょう。 	○	○	○	○
(2) (あ) 3 L = □ d L	○	×	○	○	○	(2)あてはまる単位 (あ)えんぴつの長さ 18 □ (い)黒板の横の長さ 4 □	○	○	○	○

(い) $1\text{ cm} = \square\text{ mm}$	○	×	○	○	○	(う) 東京から大さかまでの きより $400\square$	○	○	○	○
(3) 100は10を□こ集めた数	×	×	○	○	○	(3) $2\text{ m} = \square\text{ cm}$	○	○	×	○
(4) 10が28こ集まった数は□	○	×	○	○	○	(4) $10\text{ km} = \square\text{ m}$	×	○	×	○
(5) 1Lを10等分した数は□	○	×	○	○	×	(5) $308\text{ cm} = \square\text{ m}\square\text{ cm}$	○	○	×	×
(6) 1mmが13こ集まると $\square\text{ mm} = \square\text{ cm}\square\text{ mm}$	○	×	○	○	○	(6) $4700\text{ m} = \square\text{ km}\square\text{ m}$	○	×	○	○
(7) (あ) $32 + 19$ (い) $15 - 8$ (う) $35 - 19$	○	○	○	○	○	(7) この図は長方形です。 □は何cmでしょうか。 そのように考えた理由 も書きましょう。  3 cm □ cm 5 cm (理由)	○	○	○	○
(8) $1.3 - 0.6$ (未習)	○	×	○	○	×	(8) (7)の図の面積はいくら でしょうか。(未習)	×	×	×	×

<p>3年生の全体的な傾向は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数に関して、全員が好きと感じている。 【設問①】 自力で問題が解けたり、できたことを認められたりするとき楽しいと感じている子どもが多い。 【設問②】 計算ができないときだけでなく、答えは出せても説明がうまくできない場合に困っている子どもがいる。 【設問③】 一人調べの際、自分の考えをノートに詳しく書こうとする姿が見られる。 【設問④】 説明する際に、大事なことを伝えるために、ポイントを絞って話そうとしている。 【設問⑤】 間接指導の際、自分たちで考えを出し合ったり、めあてに沿ったまとめを考えるために話し合いをしたりしようとする姿が多い。 【設問⑥】 <p>解き方を考えたり計算したりすることに関して、積極性や理解の速さにおいて個人差の見られることから、学び合いの場を設定しながら指導して行くことが必要な学年である。学年全体の傾向を踏まえつつ、個々の実態を更に分析し、単元の指導に生かしたい。</p> <p>A児は、自分の考えを分かりやすく説明することに、とても意欲的である。学習したことを生かして何とか解決しようとし、話し合いの中心的存在である。焦って計算するため、ミスすることもある。</p> <p>B児は、集中して作業することが苦手で、計算にも、</p>	<p>4年生の全体的な傾向は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数に関して、好きと感じている子どもが多い。 【設問①】 式や図を使って解き方を考えたり、ボードを使って説明したりすることを楽しいと感じている子どもが多い。 【設問②】 説明の意味が分からないときや、うまく説明できないときに、困難さを感じる子どもが多い。 【設問③】 ノートに書く際に、内容を詳しく書くことに加え、ポイントを書いたり色を分けて書いたりすることで、分かりやすくしようとする工夫をしている。 【設問④】 説明する際に、順序を表す言葉や問い掛けの言葉を使おうと意識していることがうかがえる。 【設問⑤】 間接指導の際、ガイドを中心に学習を進めていこうとする姿が見られる。 【設問⑥】 <p>計算の技能や、知識に関して個人差が大きいことから、単元に入る前からの十分な手立てが必要となる学年である。学年全体の傾向を踏まえつつ個々の実態を更に分析し、単元の指導に生かしたい。</p> <p>F児は、既習事項を使って新たな課題を解決したり、ノートに分かりやすくまとめたりすることに意欲的で、積極的に発言する。間接指導時の話し合い活動では、中心となる児童である。</p>
--	--

やや時間がかかるが、自分の考えを意欲的に伝えようという態度が見られる。既習事項の定着が十分でないため、個別に指導が必要な児童である。

C児は、新たな問題を解決しようとするとき、既習事項を生かして考えようとするが、積極的に発言することを躊躇することもあるので、ノートに書いてから発表させるなど、段階を踏んで表現させる手立てが必要である。

D児は、課題について論理的に考え、自分なりにまとめることができる。ノートにまとめる際も工夫が見られる。練り合いの場面では、話合いの中心としての役割を担う力があるが、ガイド役への不安感をもっているため、ガイド進行表などを活用するなどして、自信をつけさせていきたい。

E児は、新たな学習内容が定着するまでに、やや時間がかかるが、根気よく取り組む姿勢が見られる。練習問題に多く取り組ませながら定着を図っていきたい。

G児は、自分の考えを分かりやすくまとめたり、ノートに工夫してポイントを書いたりすることができる。また、近くの友達に助言することもできる。ノートにまとめた考えを、友達と共有させるなど、教師やガイドの関わりにおいて表現の場を多く設けていくことで、さらに全体の考えを深める役目を果たすと考えられる。

H児は、学習内容の理解に時間がかかり、一斉指導では定着しない場合も多い。導入時の見通しをもたせる場面で、具体的な方法をイメージさせるなど、間接指導時の調べ学習がスムーズに進められるような手立てが必要である。

I児は、じっくりと考えて問題解決に当たることが多く、やや時間を要するが、論理的に説明することができる。友達との意見交流の場で気付いたことを工夫してまとめる方法や、反復練習での技能定着を図り、学び合いの中心としても育てていきたい。

(4) 指導上の留意点

ア 視点1 《算数科における系統の明確化とそれを生かした指導》

第3学年においては、「長さ」や「水のかさ」の既習事項を元に、1 mや1 Lを10等分する操作活動を取り入れたり、数直線で表された量は実際にはどれくらいか調べたりして量感をつかませる。また、0.1 いくつ分で表すことを常に意識させ、これまでの計算のきまりを使って課題解決できることに気づかせる。

第4学年では、既習事項の「広さくらべ」をもとに、面積という言葉や概念を理解させる。具体物操作や立式をするなかで、面積を数値化することや公式を使うことよさを実感させる。また、前単元の「式と計算」の学習を想起させ、自分の考えを式で表現する技能もさらに身に付けさせていく。

イ 視点2 《算数科における言語活動の充実》

「既習事項をもとにして見通す」「自分の考えを表現する」「互いの意見を基に話し合う」活動を通し、単元を通して取り入れていくことで、主体的に思考・判断・表現する力を育てていく。各学年の留意点は次のとおりである。

(ア) 「1 はしたの表し方」では、1 dLより小さいはしたの量をどう表すかという問題意識をもたせた上で、単位の大きさを10等分して新たな単位(0.1)をつくり、その単位のいくつ分かて大きさを表せばよいことに気付かせ、小数の意味と表し方を理解させる。さらに、具体物や半具体物、数直線を使って、小数を相対的に見たり、構成的に見たりするなど、多面的に捉えられるようにし、数の感覚を豊かにしていく。

(イ) 「2 小数のしくみ」では、小数を数直線上に表し、整数と同じ系列の中に位置付け、小数の理解を深めさせていく。また、小数も整数と同じように、10個集まると1繰り上がって、一つ上の位に移ることから、同じ仕組み(十進位取り記数法)になっていることを理解させる。

(ウ) 「3 小数のたし算とひき算」では、1 Lます図や数直線などを用い、0.1のいくつ分で考えることと、整数の場合のように位同士計算する

(ア) 「1 面積」では、直接比較や間接比較の方法で考えさせ、任意単位での測定や敷き詰めなど具体物の操作を通して、面積の概念をしっかり理解させる。さらに、1 cm²の正方形いくつ分かて面積を表すことを理解させ、同じ面積で違う形をかく活動を通して、面積は切って動かしても保存されることを理解させる。

(イ) 「2 長方形と正方形の面積」では、長方形や正方形の面積は、単位面積のいくつ分であるかを手際よく見付ける方法を公式にまとめる学習から、面積は縦と横の辺の長さをかけた計算によって求めることができることを理解させる。

(ウ) 「3 大きな面積の単位」では、実測・体感する活動を通して、普遍単位のそれぞれの大きさについて感覚を豊かにする。そして、1辺の長さに着目させながら、面積の単位cm²、m²、a、ha、km²の相互関係を捉えさせる。

ことの両方に着目させながら計算の仕方を考えさせる。その際、小数は整数と同じように十進位取り記数法であることから、小数点をそろえて位ごとに計算ができることを理解させ、筆算の技能定着を図る。

ウ 視点3《複式のよさを生かした学び方指導》

- (ア) 指導内容の重点化を図るために、学習内容を精選するとともに、両学年の学習内容を比較検討する。一方の学年の子どもたちが間接指導においても自力で解決していける学習内容であれば、もう一方の学年の子どもたちへの個別指導の時間を確保できるよう、両学年の子どもたちへの関わり方に軽重をつける指導方法の工夫を行う。
- (イ) 間接指導時において、子どもたちが円滑に学習を進められるように、事前にガイド役との打合せを行い、学習の進め方について確認し、学習の流れが全員に分かるように提示しておく。また、わたる前に活動内容を確認し、活動の開始を見届けてから他学年にわたるようにし、充実した学習活動が進められるようにする。
- (ウ) 学習形態については、学年別複式学習指導を基本とし、そのよさを十分生かして指導していく。ここでいう学年別複式学習指導のよさとは、「学習に対する主体性が育ちやすい」、「異学年交流が可能である」ことなどが挙げられる。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 目標

《第3学年》	《第4学年》
<ul style="list-style-type: none"> ● 小数の意味や表し方について理解できるようにする。 [A(5)] ・ 端数部分の大きさを表すのに小数を用いる。また、小数の表し方及び$\frac{1}{10}$の位について知る。 [A(5)ア] ・ $\frac{1}{10}$の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、計算の仕方を考え、それらの計算ができる。 [A(5)イ] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。 [B(1)] ・ 面積の単位について知る。 [B(1)ア] ・ 正方形及び長方形の面積の求め方を考える。 [B(1)イ] ● 数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。 [D(2)] ・ 公式についての考え方を理解し、公式を用いる。 [D(2)イ] ● アール(a), ヘクタール(ha)の単位についても触れる。 [3(5)]

(2) 評価規準

内 容	観 点	内 容
1 d Lより小さい端数部分を数値化する必要性を感じ、その表し方や大小比較の方法を考えようとしている。	関心・意欲・態度	面積の大きさを数値化して表すことのよさに気づき、身の回りのいろいろな形の面積を求めようとしている。
小数の表し方や計算の仕方が、整数の場合と同じようにできることに気づき、整数の表し方や計算の仕方をもとに考えている。	数学的な考え方	単位面積を用いて、広さを数値化する方法を考え、図や数、式を用いて表し、正方形や長方形の求積公式を導き出している。
小数をいろいろな図に表したり、小数の加法や減法を十進位取り記数法と関連させて、計算したりすることができる。	技能	求積に必要な辺の長さを調べて、長方形や正方形、複合図形などの面積を公式を使って求めることができる。
整数の十進位取り記数法の考えを基に、小数の意味とその表し方、小数の計算の仕方を理解している。また、整数を基に、小数の構成や大きさなどについての豊かな感覚をもっている。	知識・理解	面積の単位と測定の意味が分かり、面積の求め方や単位の間接関係を理解している。また、 1 m^2 がどれくらいの面積なのかを、身の回りのものの面積の大きさを基にして捉えるなど、面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。

【第3学年】

【第4学年】

評価 観点	小 単元	主な学習活動	指導の 傾斜	主な学習活動	小 単元	評価 観点
関・考 知 考・技 関・技	1 はしたの表し方	① 1dLよりも小さい端数部分も，10等分した単位を用いて数として表せることを知る。 ② 小数の意味とその表し方を理解する。 ③ 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知る。 小数の相対的な大きさについて理解する。 ④ かさや長さをいろいろな単位を基に小数で表すことができる。		前単元		
知	2 小数のしくみ	⑤ 小数の仕組みや大小関係を理解する。		① 広さのくらべ方の方法を考える。 任意の単位を基にして，広さを表す。	1	関・考
考 技	3 小数のたし算とひき算	⑥ 小数の加法は，0.1を単位として考えると，整数と同じように計算ができることを1より小さい真小数で理解する。 ⑦ 1より大きい帯小数の加法の仕方について理解する。		② 面積の単位 cm^2 を知り，単位面積をもとにして面積を求める。 同じ面積の様々な図形をかく。 ③ 長方形と正方形の面積の求め方を考え，求積公式の意味が分かる。	面積 2 長方形と正方形の面積	考・知 考
知		⑧ 小数の減法も，小数の加法と同様に考えられることを理解する。		④ 必要な辺の長さを測って，長方形や正方形の面積を求める。 面積と1辺の長さが分かっているとき，他の1辺の長さを求める。		技
技		⑨ 帯小数の減法の仕方について理解する。 【本時】		⑤ 複合図形の面積を工夫して求める。 必要な辺の長さを測り，複合図形の面積を求める。 【本時】		考・関
	練習	⑩ 既習事項の理解を深める。		⑥ 面積の単位 m^2 が分かり， m^2 単位で面積を求めることができる。 $1\text{m}^2 = 10000\text{cm}^2$	3	知
	力だめし	⑪ 既習事項の確かめをする。		⑦ 単位 a を知り， a を使って面積を求める。 単位 ha を知り， ha を使って面積を求める。 a と ha の関係を考える。	大きい面積の単位	知
		次単元		⑧ 単位 km^2 を知り， km^2 を使って面積を求める。 cm^2 ， m^2 ， km^2 ， a ， ha の単位関係の理解を深める。	単位	考

				⑨ 他者の考えを理解し、それを活用する。	チャレンジ	関・知
				⑩ 既習事項の理解を深める。 既習事項の確かめをする。	練習・力だめし	

5 本時（第3学年：9/11，第4学年：5/10）

(1) ねらい

ア 帯小数の減法の仕方について理解し、小数の減法を筆算を使って計算する。

ア 複合図形の面積を工夫して求める。

イ 必要な辺の長さを測り、複合図形の面積を求める。

(2) 評価規準

小数の減法を十進位取り記数法と関連させて、計算することができる。

測定する広さや形に応じた面積の求め方を、図や数、式を用いて考えている。

(3) 指導上の留意点

ア 視点1《算数科における系統の明確化とそれを生かした指導》

(ア) 整数と小数の計算や、答えが1以下になる場合についても、既習事項の、0.1がいくつ分かということをもとに考えさせることで、正しい小数点の位置を考えさせ、加法と同様の考え方で位をそろえて筆算することを理解させる。

(ア) 既習事項を使って課題解決できないか、自力解決に入る前に見通しをもたせ、友達の見通しも知ることによって解決方法を見出す手掛かりとさせる。

(イ) 既習事項を使って課題解決させるために、前時までの学習の軌跡を掲示しておく。

(イ) 面積を求める公式を掲示しておき、課題解決の際のヒントとしたり、まとめる際の手掛かりとしたりできるようにする。

イ 視点2《算数科における言語活動の充実》

(ア) 形式的な計算の手順確認だけに終わらせないために、テープ図でメモりのいくつ分かを確かめたり、考えた解き方を自分の言葉で表現したりするなどの算数的活動を取り入れ、既習事項と関連付けて説明させる。

(ア) 自分の考えを分かりやすく伝えられるようにするために、図を使って考えたことを表現したり、図と式を関連付けて説明したりさせる。

(イ) 自分と友達の考えを比べたり、出た意見を分類したりすることで、より深く考え、友達と話し合いながらまとめへとつなげていけるようにする。

ウ 視点3《複式のよさを生かした学び方指導》

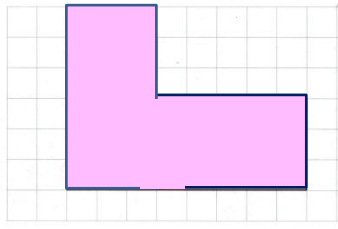
(ア) 4年生は、前時の学習の終末段階で次時の内容を確認しめあてを立てておく。ずらしを行うことで、4年生はすぐに調べる活動から学習が始められるようにし、導入部分では3年生に重点を置いた指導を行えるようにしたい。また、各学年の学習の流れを提示しておくことで、全員に取り組むことを把握させ、主体的に学習が進められるようにする。

(イ) 間接指導時において、子どもたちが円滑に学習を進められるように、事前にガイド役との打合せを行い、学習の進め方について確認する。また、わたる前に活動内容を確認し、活動の開始を見届けてから他学年にわたるようにし、充実した学習活動が進められるようにする。

(ウ) 課題解決の場において、自力解決に個人差が出ることが予想されるため、教材・教具やヒントカードの工夫、学び合いの場の設定など、子どもたちが自力で解決できるような手立てを工夫する。

(エ) 学習形態については、学年別複式学習指導を基本とし、複式学級であることのよさを生かして、それぞれの学年の学習内容の習熟を図っていく。

(4) 展開

指導上の留意点	主な学習活動 (第3学年)	難	位置/時間	難	主な学習活動 (第4学年)	指導上の留意点							
<p>○前時までの、小数のたし算の計算方法を掲示しておき、本時の自力解決の際の手掛かりになるようにする。</p> <p>○問題場面をつかみややすくするために、テープ図を使って量を提示し、視覚的に捉えさせる。</p> <p>○友達の見通しを知ること、自分で解決方法を見出すことができない子どもへのヒントとし、自力解決への手掛かりとさせる。</p> <p>○この時間の学習の流れがいつでも確認できるように、黒板に学習の進め方を掲示しておき、見通しをもって学習活動が行えるようにする。</p> <p>○自分の考えをノートに書く際、友だちに説明することを意識してまとめさせることで、解決のポイントを明確にし、筋道立てて説明する方法を工夫させる。</p> <p>【評価・ノート】</p> <p>○テープ図を使って子どもの説明を補足することで、計算の手順や形式だけでなく、小数の意味にも着目させる。</p> <p>○既習の加法の計算との共通点に着目させ、小数も0.1のいくつ分ととらえさせることで、整数の計算と同じように繰り下がって計算できることを理解させる。</p> <p>○各自で練習問題を解くことで、空位がある場合の筆算であることに気付かせ、話し合いの中で注意点をまとめさせる。</p> <p>○間接指導の中での話し合いとなるため、事前にパソコンに教師がまとめを入れておき、ガイドを中心に、ポイントの確認をさせる。</p> <p>○練習問題→自己採点→次の練習問題と、段階的に取り組ませ、一枚の問題数を少なくすることで、達成感をもたせる。</p> <p>【評価・プリント】</p> <p>○次時は、これまでの学習の確認として、練習問題をすることを確認させる。</p>	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時の学習課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>さゆりさんと妹は、それぞれリボンをもっています。さゆりさんのリボンの長さは1.9m、妹のリボンの長さは3.5mです。ちがいは何mでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 式を立てる。 <p>3 本時の学習のめあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>小数のひき算のひっ算は、どのようなことに気をつけて計算すればよいでしょう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 見通しをもつ。 <p>4 学習の進め方について確認する。 [学習活動の確認] 自力解決 → 計算方法の発表 → よりよい解決方法についての話し合い → まとめ → 次の課題 → 確かめ → 練習</p> <p>5 自力解決をする。</p> <p>6 解決方法を発表し、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>式 $3.5 - 1.9 = 1.6$ 答え 1.6 m</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 各自の考えを、ノートやホワイトボードで説明する。 よりよい解決方法を話し合う。 <p>7 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>小数のひき算も、たし算と同じように位をそろえて計算すればよい。</p> </div> <p>8 $4 - 1.8$, $4.2 - 3.8$の筆算の練習問題を解く。</p> <p>9 8の問題で、気をつけることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自の考えを、説明する。 気を付けるポイントを話し合う。 パソコンで、ポイントの確認をする。 <p>10 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。</p> <p>11 練習問題をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードに記入する。 	つかむ③	6分	見通す④	4分	調べる⑧	10分	練習上げる⑱	練習する⑩	まとめ③	3分	まとめ②	2分
	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時の学習課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>下の図形の面積は何cm^2でしょうか。</p> </div>  <p>3 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>かいだんのような形の面積は、どのようにして求めればよいでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 見通しをもつ。 <p>4 学習の進め方について確認する。 [学習活動の確認] 自力解決 → 計算方法の発表 → よりよい解決方法についての話し合い → まとめ → 練習</p> <p>5 自力解決をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>式 $6 \times 3 + 3 \times 5 = 33$ 式 $3 \times 3 + 3 \times 8 = 33$ 式 $6 \times 8 - 3 \times 5 = 33$ 答え 33 cm^2</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 各自の考えを、ノートやホワイトボードで説明する。 よりよい解決方法を話し合う。 <p>7 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>長方形や正方形に分けて、たしたりひいたりして、求めればよい。</p> </div> <p>8 練習問題をする。</p> <p>9 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードに記入する。 	つかむ①	見通す④	調べる⑩	練習上げる⑲	練習する⑧	まとめ②						
	<p>○前時までの、長方形・正方形の面積を求める公式を掲示しておき、本時の自力解決の際の手掛かりになるようにする。</p> <p>○この時間の学習の流れがいつでも確認できるように、前面に学習の進め方を掲示しておき、見通しをもって学習活動が行えるようにする。</p> <p>○前時終末に立てた学習課題とめあてを、全員で確認し、見通しを出し合うことで、自力解決にスムーズに入れるようにする。</p> <p>○自分の考えをノートに書く際、友達に説明することを意識してまとめさせることで、解決のポイントを明確にし、筋道立てて説明する方法を工夫させる。</p> <p>○自力解決が困難な子どもには、既習事項の掲示物や教科書を振り返らせるなどして、解決の手掛かりをつかませる。</p> <p>○早く解決できた子ども同士で、考えを説明し合うことで、自分の考えを確かにしたり、分かりやすい説明の仕方を考えたりできるようにする。</p> <p>○計算方法を、視覚的、論理的に説明できるように、補助線や気付きなど、図への書き込みを残させ、言葉、数、式を用いて考えさせるようにする。</p> <p>【評価・ノート】</p> <p>○ガイドの進行で、発表が進められるよう事前打合せをしておく。</p> <p>○発表の際、ノートを実物投影機に写して説明させることで、図と関連付けて説明できるようにする。</p> <p>○似た意見ごとに分類したり、共通点について着目させたりすることで、既習事項の長方形や正方形にして考えていることに気付かせる。</p> <p>○前時と結び付けてまとめをすることで、本時の学習が次時へも生かされるという見通しをもたせる。</p> <p>○練習問題→自己採点→次の練習問題と、段階的に取り組ませ、一枚の問題数を少なくすることで、達成感をもたせる。</p> <p>【評価・プリント】</p> <p>○次時は、大きい面積の単位について学習をすることを確認させる。</p>												